

大学ってどんなところ?

前期生の皆さんには大学受験ってずっと先のことのように思えるかもしれませんが、今回はちょっとだけ触れてみたいと思います。

前期生終了までは「義務」教育なので日本全国、ほぼみな同じ内容の教育を受けます。

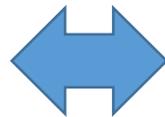
高校生（この学校だと後期生）は、普通科以外にも、工業科、商業科、家政科、理数科などといった様々な科がありますが、どんな教科をどれだけの時間、学ぶかなどは国によってある程度決められています。

そこで大学ですが、大学の特徴はズバリ、「多様性」です。いろいろなことを専門的に学ぶのが大学です。様々な名前の学科があり、教えている内容も大学によって様々です。同じ名前の学部・学科でもやっている内容が同じというわけではありません。

目指すゴールは一つではありません。同じ人間が二人いないように、大学での学びは一人一人違うのです。

中学・高校

誰が： みんなが一緒に
何を： 様々なことを
どう： そこそこ学ぶ



大学

誰が： 一人一人が
何を： 自分がやりたいことを
どう： とことん学ぶ!

大学を楽しむために「みんなとおなじ」ではなく、「自分がやりたいこと」をしっかりと持ちたいですね。

国の将来を背負う教育をするために、特定の大学に多くの研究資金が集まります。例えば令和2年の文部科学省の報告によれば科学研究費総額の第1位は東京大学の225億円です。新潟大学は17億5千万円で18位です。（東京大学の10分の1以下ですね・・・）。難関と呼ばれる大学ほど周囲の期待や注目が集まり、よりよい研究をしていることが多いので、そういう点から大学を調べてみるのもいいかもしれませんよ。

こころの「壁」をとりのぞこう

日本の人口を1億2千万人、新潟県の人口を220万人とすると、新潟県の人口は日本の人口の約2%になりますね。東京大学の定員が3000人なので、3000人の2%は・・・そう60人です。人口比だけで見ると、新潟県の大学受験生が60人東大に合格していても別に変わらないですよ。同様に県北に住む人口が10万人とすると、3人程度合格していてもおかしくない計算になります。

でも現実には、昨年、新潟県の現役東大合格者数は5名でした。お隣の富山県が人口約100万人で東大現役合格者19人だったことを考えると、新潟の高校生はもったいないなあと思います。実際、東大生は決して「激レアさん」ではありません。この村上中等教育学校の歴代の先輩たちの中にも数多くいます。上に書いたように、難関校と呼ばれる大学はそれだけ恵まれた環境にあります。そして「難関校」への入学は、全国の高校生に開かれた等しいチャンスです。「難しそうだから」ってこころに「壁」を作るなんて本当にもったいない！ 目指せば入れる可能性は十分あるのです。

オリンピックで金メダルを取る方がずっと「激レア」です。そしてこの県北地域はその「激レアさん」の金メダリストのふるさとじゃないですか。君たちの未来の可能性は無限大です。「無理だ」って最初からあきらめたら、そこで試合終了ですよ。

Let's try!

(文責 進路指導部 星野 真博)